日英比較言語学の実践Ⅳ

――『雪国』と Snow Country を比較して――

日　野　資　成

0．はじめに

日本語と英語を比べ，その違いを探るシリーズも今回で４回目となる。第１回と第２回は日英の慣用表現を材料に使い，日英の文化の違いを考察した。第３回の前回は日英のことわざを材料に使い，日英の発想，文化の違いを考察した。今回は，川端康成の『雪国』と，サイデンスティカーによるその英訳 Snow Country を比べることによって，日英の表現上の相違点，文化の相違点を探ってみたい。川端の原文一文とその英訳を一セットとして，１）から29）まで全部で29のセットの文を順番に検討していく。それぞれのセットについて，相違点，類似点に分けて検討し，コメントを添える。なお，１）から７）までの記述は高橋（1973）がもとになっているが，８）から29）までは筆者独自の考察である。川端の原文は「日」，英訳文は「英」と約して示す。

1．雪国と Snow Country，本文の比較対照

１）国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

The train came out of the long tunnel into the snow country.

相違点：①単語の不対応　日には主語がないが，英にはtrainが補われている。

日「国境」が英にはない。

②文の型　述語が日では「雪国であった」(存在文)，英では came (動作文)。

類似点：①等価値の単語の対応　日：長いトンネル　＝　英：long tunnel

日：雪国　＝　英：snow country

②イメージ　以下の箇所から，映画の移動撮影のように汽車が刻一刻動く場面を髣髴とさせる。

日：「～を抜けると」

英：came out of ～ into ～

コメント：トンネルを抜けるのは汽車であり，英訳では主語 train が必須である。トンネルを境に二つの国に分かれているが，その境目はトンネルの出口と雪国であり，はっきりしているため「国境」は英訳には含まれていない。原文は存在文で，一見動きがないようであるが，「抜けると」があるため，動的なイメージを持っている。

2）夜の底が白くなった。

The earth lay white under the night sky.

相違点：①単語の不対応　主語が日では「夜の底」，英では the earth。

日「底」が英にない。英 under，sky が日にない。

類似点：①等価値の単語の対応　日：夜　＝　英：night

日：白く＝　英：white

②イメージ　雪が　地面に　広く積もっている。　闇の深さ。

日：　白く　底　夜の底が白くなった　夜の底

英：　white　the earth　the earth lay white　under the night sky

コメント：原文の持つ詩的イメージ「雪が地面に広く積もっている，闇の深さ」を頭に思い描き，それを英語に移し変えている。

3）信号所に汽車が止まった。

The train pulled up at a signal stop.

相違点：特になし

類似点：①等価値の単語の対応　日：信号所　＝　英：signal stop

日：汽車　＝　英：train

②主語が等価値の単語で対応　日：汽車　＝　英：train

③イメージ　車両が長く続く汽車が蛇行して止まる

日：止まった　英：pulled up

コメント：「止まった」を stop でなく pull up（蛇行して止まる）と訳したのは，当時の日本の汽車の様子をよく知っていて始めてできる翻訳である。翻訳者は二つの国の言語だけでなく，二つの国の文化にも通じている必要がある。

4）向側の座席から娘が立って来て，島村の前のガラス窓を落した。

A girl who had been sitting on the other side of the car came over and opened the window in front of Shimamura.

相違点：①単語の不対応　日：なし　英：car（車両）

日：立って来て　英：came over

日：ガラス窓を落した　英：opened the window

②表現方法

日：座席から　英：had been sitting

日「座席」という名詞表現，英 be sitting は動詞表現。

類似点：①等価値の単語の対応　日：娘　＝　英：girl

日：向側　＝　英：the other side

日：島村　＝　英：Shimamura

日：前　＝　英：front

日：ガラス窓　＝　英：window

コメント：娘と島村の座席は一車両内にあるので，英語で car（車両）は必

須である。came over を逆に日本語に訳すと「やって来て」となるが，「やって来て」は遠くから来るとき使う。「立って来て」は近くから来るイメージがある。英語の came over も同じである。「ガラス窓を落とした」。当時の汽車の窓は落とし窓式だった。アメリカの汽車にはないので opened とした。「立って来て」とあるので，その前はすわっていた。したがって，「座席から」を，動詞 sit を使って訳した。

5）雪の冷気が流れ込んだ。

The snowy cold poured in.

相違点：①単語の不対応　日「雪の」　英 snowy

類似点：①等価値の単語の対応　日：流れ込んだ　＝　英：poured in

日「雪の冷気」　＝　英 snowy cold

コメント：snowy はふつう snowy night,snowy mountain top などのように「雪の多い」という意味だが，日「雪の」は「雪の多い」でなく「雪のように冷たい」の意味で使われている。しかし，snowy は cold（寒さ，冷気）の前に来ると「雪のように冷たい」の意味になる。日「雪の冷気」，英 snowy　cold，どちらもカチンと凍てつくような寒さを表している。

6）娘は窓いっぱいに乗り出して，遠くへ叫ぶように，

「駅長さあん，駅長さあん。」

Leaning far out the window, the girl called to the station master as though he were a great distance away.

相違点：①表現法

日：直接話法「駅長さあん」　英：間接話法：called to

日「遠くへ叫ぶように」　英as though he were a great distance away

類似点：①等価値の単語の対応　日：娘　＝　英：girl

日：窓　＝　英：window

日：いっぱいに　＝　英：far

日：乗り出して　＝　英：leaning out
日：遠く　＝　英：distance
日：ように　＝　英：as though
日：駅長　＝　英：station master

②イメージ　娘が窓から乗り出すさま，遠くへ呼びかけるさま

コメント：日本語では「先生」「部長」など役職名で呼びかけることができるが，英語にはその習慣がないので，間接話法にした。「遠くへ叫ぶように」は英では主語が必要。ところが，英では，主語は「娘」から he（駅長）に置き換えられ，「彼（駅長）が非常に遠く離れたところにいるかのように」という客観的な描写となっている。

7）明かりをさげてゆっくり雪を踏んで来た男は，襟巻きで鼻の上まで包み，耳に帽子の毛皮を垂れていた。

The station master walked slowly over the snow, a lantern in his hand. His face was buried to the nose in a muffler, and the flaps of his cap were turned down over his ears.

相違点：①単語の不対応　日：男　英：the station master

②表現方法　日：明かりをさげて（動詞句）
英：a lantern in his hand（名詞句）
日：（顔を）包み，（能動態）
英：His face was buried（受動態）

③文の数　日：一つ　英：二つ

④主語の数
日：一つ（男）
英：三つ（the station master, his face, the flaps of his cap）

類似点：①等価値の単語の対応　日：明かり　＝　英：a lantern
日：ゆっくり　＝　英：slowly
日：雪　＝　英：the snow

日：踏んで来た　＝　英：walked over
日：襟巻き　＝　英：a muffler
日：鼻　＝　英：the nose
日：耳　＝　英：his ears
日：帽子　＝　英：his cap

コメント：日「男」でもだれかわかるが，英ではもう一度 station　master を繰り返す。その方がわかりやすい。日本語はひとつの主語，一つの文で足りるという点で，自由がきく言語である。一方英語は，意味上の三つの主語を補わなければならないという非常に厳格な言語である。

8）もうそんな寒さかと島村は外を眺めると，鉄道の官舎らしいバラックが山裾に寒々と散らばっているだけで，雪の色はそこまで行かぬうちに闇に呑まれていた。

It's that cold, is it, thought Shimamura. Low, barracklike buildings that might have been railway dormitories were scattered here and there up the frozen slope of the mountain. The white of the snow fell away into the darkness some distance before it reached them.

相違点：①文の数　日：一つ　英：三つ

②表現方法

日：寒々と（副詞）　英：frozen（形容詞）

日：散らばって（自動詞）　英：were scattered（他動詞受身）

日：雪の色　英：The white of the snow

日：そこまで行かぬうちに

英：some distance before it reached them

類似点：①等価値の単語の対応

日：そんな寒さ　＝　英：that cold

日：鉄道の官舎　＝　英：railway dormitories

日：山裾　＝　英：the slope of the mountain

日：闇　　＝　英：darkness

コメント：日では，「外を眺めると」以下に島村の見た景色が緩やかにつながっている。英では，thought　Shimamura で一度切って，次に続く二つの景色も二つの文で厳格に分けている。日「色」が英 white となり，英の方が具体的。「そこまで行かぬうちに」の英訳中の it は「雪の色」，them は「バラック」を指す。英語は，主語・目的語を代名詞で補う厳格な言語であるが，日本語はその必要がない。

9）「駅長さん，私です，御機嫌よろしゅうございます。」

"How are you?" the girl called out. "It's Yoko."

相違点：①単語の不対応　日：駅長さん　英：you

日：私　　英：Yoko

②表現方法

日：ごきげんよろしうございます　英：How are you

日：すべて会話文　英：地の文 the girl called out が挿入

類似点：特になし

コメント：英では station　master などの官職名で呼びかける習慣がない。一方，It's Yoko のように，自分の名前をはっきり他人に言うという習慣がある。自己主張の強い国民性を反映している。「御機嫌」の「御」は尊敬の接頭語，「ございます」は丁寧語。英にはない用法である。また，英では the girl called out のように，二つの会話文の間に地の文を挿入する習慣がある。

10）「ああ，葉子さんじゃないか。お帰りかい。また寒くなったよ。」

"Yoko, is it.　On your way back? It's gotten cold again."

相違点：①表現方法　　日：葉子さん　英 Yoko

日：お帰り　英：on your way back

類似点：①等価値の単語の対応　日：また　　＝　英：again

日：寒くなった　＝　be gotten cold

②表現方法　　日：～か　英：is it

日：お帰り（になるところ）

英：(Are you) on your way back

コメント：「～さん」は尊敬の接尾語。英語の Ms. に当たるが，英にはない。英の方がくだけている。「お～」は尊敬の接頭語。日の方が丁寧な表現である。「か」は疑問ではなく念押しの機能を持ち，疑問詞「？」のない付加疑問 is it に対応する。お帰り（になるところ），(Are you) on your way back はどちらも文の一部（　）が省かれた簡潔表現である。

11）「弟が今度こちらに勤めさせていただいておりますのですってね。お世話様ですわ。」

"I understand my brother has come to work here.　Thank you for all you've done."

相違点：①表現法（敬語）　日：こちらに（丁寧語）　英：here

日：勤めさせていただいております（謙譲語）

英：has come to work

日：お世話様（尊敬語）

英：Thank you for～

類似点：①丁寧用法

日：～のですってね　英：I understand

日：お世話様ですわ　英：Thank you for all you've done

コメント：日「こちらに」は丁寧語，「させていただいております」の「いただく」「おります」は謙譲語，「お世話様」の「お～」「～様」は尊敬語である。この三種類の敬語の区別は英語にはない。しかし，敬語が全くないわけではなく，ここでは，I　understand は日本語の「～と思う」に当たり，断定を避けたやわらかい響きを持たせて，日の「～のですってね」の訳となっている。また，英 all you've done（あなたがしたすべてのこと）を Thank you に加えることで，感謝の意を強め，日の尊敬語の訳となっている。

12)「こんなところ，今に寂しくて参るだろうよ。若いのに可哀想だな。」

"It will be lonely, though. This is no place for a young boy."

相違点：①表現法　日：参る，可哀想　英：lonely, no place

②言葉遣い　日：参るだろうよ，可哀想だな

英：be lonely, be no place

類似点：①等価値の単語の対応　日：寂しくて　＝　英：lonely

日：若い　＝　英：young

②逆接の文脈　日：今に寂しくて参る　英：It will be lonely, though

コメント：日「参る」「可哀想」は同情を表す主観的表現，英 be lonely, no place は弟の描写を表す客観的表現である。また，「～よ」「～だな」は男性語で，英にはない。一方，日「(葉子の弟が) 寂しくて参る」には「(葉子の弟は) 今は元気だが」という含みがある。それを英は though で表した。

13)「ほんの子供ですから，駅長さんからよく教えてやっていただいて，よろしくお願いいたしますわ。」

"He's really no more than a child. You'll teach him what he needs to know, won't you."

相違点：①単語・句の不対応　日：駅長さん　英：you

日：なし　英：what he needs

②表現法　日：～やっていただく　英：なし

日：よろしくお願いいたします　英：won't you

日：～わ　英：なし

③文の数　日：一つ　英：二つ

類似点：等価値の単語の対応　日：ほんの　＝　英：no more than

日：子供　＝　英：child

コメント：「教える」の目的語が日にはないが，英にはある（what he needs（彼が必要なこと）。英では他動詞には必ず目的語が必要となる。日「～ていただく」は謙譲語，英にはない表現。「よろしくお願いいたします」も英

にない日本的表現だが，英では付加疑問 won't you に疑問符「？」をつけないで念を押す言い方にしている。日「～わ」は女性語。これも英にはない表現。また，日では「～から」とテ形のあとに，読点を置いてつなげ，一文となっている。英よりもつながり方がゆるやか。

14)「よろしい。元気で働いているよ。

"Oh, but he's doing very well.

相違点：①単語の不対応　　日：なし　　英：but

類似点：①等価値の語の対応　　日：よろしい　　英：Oh

コメント：英 but には「子供だけれど」という含みがあり，駅長の気持ちが補われている。日「よろしい」と英 oh は一見対応していないように思えるが，「よろしい」は直前の葉子の「よろしく～」を受けて出たことばで，相づち程度のことば。英の oh に対応する。

15) これからいそがしくなる。

We'll be busier from now on, with the snow and all.

相違点：①時制　　日：忙しくなる（現在形）　　英：We'll（未来形）

②表現法　日：忙しくなる　　英：be busier

③句の不対応　　日：なし　　英：with the snow and all

類似点：①等価値の語の対応　　日：これから　　英：from now on

コメント：動作を表す日の現在形は未来時制を表す。英 be busier は「今も忙しいがこれからさらに忙しくなる」という意味あいを補っている。英 with the snow and all は忙しい内容を詳しく補っている。

16) 去年は大雪だったよ。よく雪崩れてね，汽車が立ち往生するんで，村も焚出しがいそがしかったよ。」

Last year we had so much that the trains were always being stopped by avalanches, and the whole town was kept busy cooking for them."

相違点：①文の数　日：一つ　　英：二つ

②単語の不対応　　日：なし　　英：them

日：村　　英：whole town

類似点：①等価値の語の対応　　日：去年　＝　英：last year

日：雪崩れ　＝　英：avalanches

日：汽車　＝　英：train

日：忙しい　＝　英：busy

日：炊出し　＝　英：cooking for

コメント：日では，「大雪，雪崩れ，汽車が立ち往生」と羅列するだけだが，英では，so～that の構文を使って「大雪（だったので）雪崩れて，（その結果）汽車が立ち往生した」のように，論理的に補っている。英 them は汽車の乗客を指し，日にはないが補われている。また，英 whole town は「村中」。村全体であることを補っている。

17）「駅長さんずいぶん厚着に見えますわ。

"But look at the warm clothes, would you.

相違点：①単語の不対応　　日：なし　　英：but

日：厚着　　英：warm clothes

類似点：①表現法　日：～わ　　英：would you

コメント：英 but は「ところで」の意。英では話題が変わったことを補っている。また，「厚着」は直訳では thick clothes。しかし，「厚着」は「暑そうに」見えるので warm とした。意訳である。また，英 would you は付加疑問から疑問符「？」を取った念押しの表現で，「～わ」に対応している。

18）弟の手紙には，まだチョッキも着ていないようなことを書いてありましたけど。」

My brother said in his letter that he wasn't even wearing a sweater yet."

相違点：①表現法　　日：書いてある　　英：My brother said that～

日：着ていない（現在形）

英：wasn't wearing（過去形）

類似点：①等価値の語の対応　日：弟　＝　英：my brother

日：手紙　＝　英：his letter

日：チョッキ　＝　英：sweater

日：着る　＝　英：wear

コメント：日「書いてある」は自然にそうなるという「ナル的」表現。英 My brother said は（弟が）「言った」という行為を表す「スル的」表現。また，英は，時制の一致で過 wasn't wearing と過去形になっている。英語は過去の出来事は過去形にする論理的言語。一方日本語は「着ていない」と現在形になっており，その点，融通が利く言語である。

19）「私は着物を四枚重ねだ。

"I'm not warm unless I have on four layers, myself.

相違点：表現法　日：なし　英：I'm not warm unless

日：なし　英：myself

類似点：①等価値の語の対応　日：四枚重ね　英：four layers

コメント：日「四枚重ね」は「四枚重ね（でないと暖かくない）」という意味合いがあり，それを英では unless を使って補っている。また，駅長が他の人に比べて自分は特に寒がりであるという意味を，英は myself で補っている。

20）若い者は寒いと酒ばかり飲んでいるよ。それでごろごろあすこにぶっ倒れているのさ，風邪をひいてね。」

The young ones start drinking when it gets cold, and the first thing you know they're over there in bed with colds."

相違点：①表現法　日：ぶっ倒れて　～さ　英：なし

日：寒いと酒ばかり飲む

英：start drinking when it gets cold

日：ごろごろぶっ倒れている

英：the first thing you know they're in bed

類似点：①等価値の語の対応　日：若い　＝　英：young

日：寒い　＝　英：cold

日：あすこに　＝　英：over there

日：風邪　＝　英：colds

コメント：駅長の粗野な言葉づかい「ぶっ倒れて」「～さ」は英に翻訳不可能である。日「ばかり」で「何度も（いつも）酒を飲む」ことが示されているが，英ではそれを「ちょっと寒くなると飲み始める」で移し変えている。また，「仕事そっちのけで寝てばかりいる」というニュアンスを the first thing you know（何よりも先に）で示している。

21）駅長は官舎の方へ手の明りを振り向けた。

He waved his lantern toward the dormitories.

相違点：①語の不対応　日：（明りを）振り向けた

英：waved (lantern) toward

日：駅長　英：he

類似点：①等価値の語の対応　日：官舎　＝　英：dormitories

日：明り　＝　英：lantern

日：方へ　＝　英：toward

コメント：日「振り」は wave，向けては toward に対応するが，英「～に向けて振った」は日「振り向けた（振って向けた）と順番が逆。しかし，英「向けて振った」の方が自然な順番。日「駅長」は何回も使えるが，英では代名詞で十分。

22）「弟もお酒をいただきますでしょうか。」

"Does my brother drink?"

相違点：①表現法　日：いただきます　英：なし
類似点：①等価値の語の対応　日：弟　＝　英：my brother
日：酒を飲む　＝　英：drink
コメント：日本語の謙譲表現「いただきます」は英語にはない。

23)「いや。」

"Not that I know of."

相違点：①表現方法　日：いや　英：Not that I know of
コメント：日「いや」は「いや（あまりよくは知らない）」というニュアンス。英ではそれを補っている。

24)「駅長さんもうお帰りですの？」

"You are on your way home, are you?"

相違点：①語の不対応　日：駅長さん　英：you
②表現法　日：お帰り　英：on your way
日：～の　英：なし
類似点：特になし
コメント：「お」は尊敬の接頭語。英にはない用法。「～の」は女性語。これも英にはない。

25)「私は怪我をして，医者に通ってるんだ」

"I had a little accident.　I've been going to the doctor."

相違点：①表現法　日：怪我をして　英：had a little accident
類似点：①等価値の語の対応　日：私　＝　英：I
日：医者に通う　＝　英：go to the doctor
コメント：「怪我をして」といってもたいした怪我ではないというニュアンス。日本男児は弱みを見せないという点も踏まえて，a little を付け加えた。

26)「まあ，いけませんわ。」

"You must be more careful."

相違点：①表現法　日：まあ，いけませんわ　英：You must be more careful

コメント：「まあ，いけませんわ」は「(体を大切になさらないと）いけません」というニュアンスを持つ省略表現。英ではそれを補っている。また，「～わ」は女性語。英にはない。

27) 和服に外套の駅長は寒い立ち話を切り上げたいらしく，もう後姿を見せながら，「それじゃまあ大事にいらっしゃい。」

The station master, who had an overcoat on over his kimono, turned as if to cut the freezing conversation short. "Take care of yourself," he called over his shoulder.

相違点：①表現法　日：和服に外套の

英：who had an overcoat over his kimono

日：うしろ姿を見せながら（言った）

英：turned .... called over his shoulder

日：大事にいらっしゃい　　英：take care of yourself

類似点：①等価値の語の対応

日：和服　＝　英：kimono

日：外套　＝　英：overcoat

日：駅長　＝　英：the station master

日：寒い　＝　英：freezing（凍えるように寒い）

日：大事にする　＝　英：take care of

コメント：「和服に外套の」は「和服（の上に）外套（を着た)」の簡潔表現。英では略されていない。また，「うしろ姿を見せる」を turn（うしろを向く）で，「うしろ向きで言う」を call over his shoulder で表した。「いらっしゃい」は尊敬語で，英にはない用法。

28)「駅長さん，弟は出ておりませんの？」と，葉子は雪の上を目捜しして，「駅長さん，弟をよく見てやって，お願いです。」

"Is my brother here now?" Yoko looked out over the snow-covered platform. "See that he behaves himself."

相違点：①表現法　日：駅長さん，おりません，お願いです　英：なし

日：おりませんの？　英：なし

日：弟を見てやって　英：he behaves himself

②異なる語が対応

日：雪の上　英：over the snow-covered platform

類似点：①等価値の語の対応　日：弟　＝　英：brother

日：葉子　＝　英：Yoko

日：雪　＝　英：the snow

日：目捜しする　＝　英：look out

日：見る　＝　英：see

コメント：日「駅長さん」の「～さん」は尊敬の接尾語。「おります」「です」は丁寧語。葉子の丁寧な言葉づかいを表している。英語にはこのような丁寧用法はない。日「～の」は女性語。これも英にはない。また，「弟を見てやって」は駅長が弟を見るので，弟は駅長に見られる（受動的）。英語では「弟が自分自身をよく振舞う」という能動的表現になっている。「雪の上」は具体的には「（プラットフォームの）雪の上」。原文のイメージどおりに英語に移し変えている。

29）悲しいほど美しい声であった。

It was such a beautiful voice that it struck one as sad.

相違点：表現法　日：悲しいほど　英：struck one as sad

日：悲しいほど美しい声であった

英：It was such a beautiful voice that it struck one as sad.

類似点：①等価値の語の対応　日：悲しい　＝　英：sad

日：美しい　＝　英：beautiful

日：声　　＝　英：a voice

コメント：日「悲しいほど」は「人の心を悲しく打つほど」の簡潔表現。英ではそれが補われている。また，日の順番は１）悲しい　２）美しい声，英の順番は１）beautiful voice　２）sad で，日英で順番が逆になっている。英は「so～that～」構文で，「あまりに美しい声だったので，人を打った」のように論理的である。一方，日「悲しいほど」は情緒に訴える表現である。

2．おわりに

以上，川端の原文とその英訳を比べてみた。等価値の語が多く見られる一方，表現上の相違も多く見られた。ここで，日英の文の表現上の相違点，日英の文化の相違点をまとめてみる。

表現上の相違点

①英語では意味上の主語を必ず補わなければならないが，日本語では必要ない場合もある。１）「国境の～」の冒頭文の英訳で，主語 train が補われるなど。英語の方が厳格な言語である。

②日本語の方が英語よりも文のつながりが緩やかである。一方英語は論理的である。16）のペアなど。この点においても，英語の方が厳格である。

③英語の方が日本語よりも過去・現在。未来の時制が厳密である。英語の15）未来形，18）過去形。

④日本語には省略表現，簡潔表現が多い。英語ではそれを補う必要がある。19），23），27）など。

⑤日本語では役職名で呼びかけることができるが，英語ではできない。「駅長」と station master など。

⑥日本語の主観的表現が英語では客観的表現になることがある。12）「若いのに可哀想だな」が This is no place for a young boy になるなど。

⑦日本語の「ナル的」表現が英語の「スル的」表現になることがある。18）

のペアなど。

⑧日本語には11）のように尊敬・謙譲・丁寧の区別があるが，英語にはない。

⑨日本語には男性語・女性語の区別があるが，英語には明確な区別がない。

文化の相違点

①日本の汽車の窓は落とし窓式，欧米はスライド式。4）より。

②「私です」がIt's Yokoになる。欧米では自分のことを名前で呼ぶことが多い。日本人は控えめ，欧米人は自己主張が強いといえる。

総じて，英語は論理的で厳格な言語，日本語は融通が利き，情緒に訴える言語といえよう。

一方，文化の相違点については多くを指摘することはできなかった。さらに，二つを比べてゆくことによって，文化の違いも多く指摘できるはずである。今後の課題としたい。

参考文献

川端康成『雪国』1947年　新潮社

エドワード・サイデンスティッカー　Snow Country（『雪国』の英訳）　1957年　Charles E. Tuttle Company.

高橋泰邦「二つの雪国」『季刊翻訳』1973年4月　90-101ページ　日本翻訳研究会編